



田中のりこの議会速報

◆発行/きさらづ市民ネットワーク ◆木更津市真舟 4-19-24 TEL & FAX 36-0677

◆発行日/2012年10月1日 ◆田中のりこHP/

田中のりこ市民ネット

検索

安心して子どもを生み育てられる環境

木更津市の場合、障害があるとわかった場合、福祉のサービスは子どもの成長とともに、一貫して障害福祉課でサポートしている。しかし、こどもを生み育てる段階で、障害があるかどうか、はじめはわからない場合は、どこに相談したらよいのか迷う。市役所内で「子どもに関する窓口の一本化」してほしいという観点から質問した。

●障害があるとわかったら、障害福祉課で福祉のサポート。「障害ではなくちょっと発達が遅い」場合の、子育て支援の相談窓口は？

市健康推進課・児童家庭課・まなび支援センター・学校教育課・障害福祉課(下表参照)、各課で複線的な対応だが、相談内容等は連携を密にして実施。



木更津市の場合
「障害ではない、ちょっと発達が遅いかも」と思う親の子育て相談窓口はどこ？

健康推進課	妊娠・出産から乳幼児の健診・育児相談
児童家庭課	0歳児から15歳までの子育て支援事業、手当や助成、家庭児童相談室での子育て相談、保育園
まなび支援センター	幼児から青少年までの子育て全般の相談
	幼児言語教室(2歳から6歳) 教育相談教室・あさひ学級(7歳から15歳の適応教室→裏面に関連記事)
学校教育課	幼稚園内、小・中学校内における相談
障害福祉課	障害者手帳を交付された子ども(0歳児～)などへの支援

●幼児言語教室は障害福祉課から教育委員会の実施となった理由は？

市就学時健康診断や小学校の言語教室、特別支援学級への引き継ぎや連携を考慮し、教育委員会のほうが望ましいと考え、H15年度より変更した。

●変更した効果は？

市幼児言語教室に通う幼児にとって、学校との連携はとても重要でメリットが多い。

●「すべての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるもの」の理念のもと、障害者総合支援法が来年4月施行される。社会情勢は変わってきている。市川市では、子どもを主役として、周りの大人たちも支援するため、「こども部」を設置し、その中に、発達支援課がある。



木更津市も「こどもの障害のあるなし」で行政の窓口を分けて、ありのままの子どもを受け入れて、**障害に関して子育て支援のひとつとしてとらえ**、検討の時期では？

市障がいに対する子育て支援の重要性は十分認識。市民にとって、どのような組織で、支援や対応が、市民の利便性の向上につながるかを、本市の事務分掌の現状と各市の状況等を踏まえ、調査研究していきたい。

参考資料 平成14年度に組織改編した市川市について

「こども部の中に、発達支援課があるメリットは」

- とすると、サービス本位に偏りがちな障がい児支援であるが、発達に課題があるというとらえ方だけでなく、子どもの育ちを支援する広い視点に立ち、子どもを主役としてそのまわりの大人たちも支援する立場を守ることができる。
- 発達に課題のある子どもは、通園施設以外にも様々な機関を利用していることが多く、子ども部の中に利用先となる関係機関が存在していることから、保護者からの発信があったときはすみやかな対応ができる。

9月議会 「H23年度決算審査特別委員会」を終えて

事業展開が市民に満足できるものか現状の把握と成果と課題を

3日間(半日現地視察を含む)、細部にわたり質疑をし、H23年度決算を審議しました。

●決算で実質収支額(剰余)が約18億円もあった。

(過去10年間は毎年10億円前後だった。)

実質収支額(剰余)から15億5424万4千円を基金繰入(H24年度以降の事業計画へ使うための積立)とした。

平成23年度一般会計 (円)	
歳入総額	386億2364万8千
歳出総額	362億262万4千
歳入歳出差引額	24億2102万4千
翌年度に繰り越すべき財源	5億6678万
実質収支額	18億5424万4千

●18億が、剰余になるのがわかったのは、いつ頃?

市 H23年度支出をまとめ終えるのは5月末。市税収入や扶助費などもあり、年度内にはわからない。

●H23年度予算であきらめた事業があった場合、できたのでは?

市 3か年プランに基づき事業を行い、あきらめた事業はないと把握している。

●木更津市の適正な剰余とは?

市 必要な事業に対し剰余は3~5%。県内平均7% 木更津市は7.9%



●市の土地借用に関して

●総務部管財課所管の土地(普通財産)や建物の賃借料が無料の集会所は13町内会。無料の理由は?

市 有料の中でも減免にばらつきがあり、公平性を高めるためにH23年度より無料にした。

●都市公園敷地内にある集会所などは、条例に定められ有料。集会所の総数と賃借料の総額、また、賃借料の設定の方法は?

市 集会所16箇所、賃借料は、条例により60円/m²。規則で公共的団体は半額とし、総額57万9600円。

●所管課により、市の土地の利用状況が違う。過去の経緯(土地開発公社からの建物委譲等)で、他市にはない利用形態は、今後改善していく上でも、公園外へ建て替えの際、移転しやすいように市の普通財産の土地を貸すとか土地購入の財政支援をするなど、市民に負担減らした、中長期的な計画の必要性を要望。

●介護認定調査等事務費 4039万8515円

●木更津市の高齢者の人口は、平成23年4月1日現在、約2万9千人。新たに介護認定された件数は?

市 H22年度は1119件(3.94%) H23年度は1139件(3.94%)

●現状は、高齢者25人に1人毎年新たに介護認定。

●まなび支援センター管理運営費 351万3683円

●不登校児童生徒数は減少しているが、適応指導教室「あさひ学級」への通級者は増加傾向。通級はじめるのは、何学年頃が多いか。現在、多い学年は?

市 中学2・3年に通級ははじめとなり、12名中7名が中3年。

●通級している生徒の進路指導は?

市 生徒が週に何度か「あさひ学級」に通級しており、中学校が主に進路指導。通信制の高校もある。夏休みに高校見学をした生徒もいる。10月末には4市で高校説明会を行う。

●木更津東高校の定時制に入学する理由7つのうち、2つは、「①中学時代、勉強不足で学力に自信がなかった。でももう一度基礎からしっかりやりなおしたい。②中学時代色々な事情があって学校へ行けなかった。でも将来のために勉強したい」とあり、進路の選択肢の一つにすることを要望。

●公民館管理運営費 7467万588円

●八幡台公民館の四季の杜は、地域のボランティアや歴代館長が率先し維持管理に努めているが、限界がある。また、地域も高齢化。公民館管理運営費には、今まで地域力により金額には表れない部分も多くあることを理解し今後の予算の組み立てを考えては?

市 四季の杜や法面の多い公民館の維持管理については今後検討する。

●消防団員手当 811万3千円

●予算に対し、1,885,000円減の決算。災害が少なかったことにほっとしている。出勤回数が少なくなったのは、何か傾向があるか。

市 風水害が少なく、建物火災もH22年度より減少したため。



あしがき はじめて委員となった決算審査特別委員会。H22年度決算書、H23年度予算書・補正予算・決算書、H24年度予算書など広げて時系列に見直すのにかなり時間を費やした。①所管課により違う市の土地利用の公平さ②3か年プランに基づく事業は各部予算枠組み内で単年度決算が基本だが、震災後迅速な対応

が、限られた体制で求められた年だった。必要な事業は翌年度から前倒しの実施も可能とする部署があったこと。などを評価した。今後に期待し今年度の決算に賛成。市民の暮らしがよりよくなるのを第一に。

【のりこ】